

情報モラルと情報活用能力を育む情報教育の推進

I はじめに

近年の情報化社会の発展はめざましく、新しい情報機器により、より簡単に速く情報が伝わるようになってきている。一方、情報の漏洩、サイバー犯罪、無責任で悪質な画像や映像、誹謗中傷といった情報が氾濫し、社会問題化している。その活用方法に対するマナーや常識のあり方は、現代的教育的課題でもある。子どもたちをとりまく社会状況が、日々変化している中、「教育の情報化」についても、その役割が明確にされ、整備が進められてきているところである。

校長は、これらの状況や課題を的確に捉え、情報教育の推進に取り組んでいく必要がある。そこで、子どもや学校における実態調査を行い、職場・子ども・家庭での状況をしっかりと把握するなかで、これからの情報教育にとっての方向性や、課題を明らかにしていくことが大切であると考えた。

II 研究の概要

(1) 研究のねらい

- ・ 情報機器・デジタル教材ソフト等の整備状況と利用状況・利点を明らかにする。
- ・ 教職員の指導状況、活用状況、モラル教育の状況、課題を明らかにする。
- ・ 子どものモラル、情報活用状況を把握する。
- ・ 情報教育推進のための課題、問題点を洗い出す。
- ・ ICTの活用の実際を研修する。
- ・ 各校の現状を踏まえての取り組みと校長のかかわりの情報交換をおこなう。

(2) 研究計画

第1年次

- ・ ICT機器の整備状況、教職員の指導状況、活用状況、モラル教育、子どものモラル、情報活用状況のアンケート調査および分析をし、情報教育推進のための課題、問題点を洗い出す
- ・ ICTの活用の実際を研修（電子黒板などのICT機器の利用と課題）
- ・ 各校の現状を踏まえての取り組みと校長のかかわりの情報交換

第2年次

- ・ 課題、問題点をふまえて各校の実践にいかす。各校の実践などの情報交換
- ・ ICTの活用の実際を研修

(3) 研究内容

現状と課題

A 情報機器・デジタル教材ソフト等の整備状況

学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（文部科学省）をもとにして地区の状況をみた。

- ① 児童用コンピュータ及び校務用PCは山梨県においては積極的に整備されている。しかし、LAN環境、電子黒板などの整備率は全国で30位以下と低い状況である。
- ② デジタル教科書の整備は全国15位であるが18%～20%で十分整備されているとはいえない。
- ③ 市町村や学校格差がある。高額な予算を必要とするので、組織的な取り組みが必要と感じる。
- ⑦ 学校CIO（情報化の統括責任者）については管理職自身がまだ、情報機器活用能力が十分ではなく、これから情報教育主任とともに組織的な取り組みが期待される。

B 教職員の指導状況、活用状況、モラル教育

学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(文科省)をもとにして本地区の状況を見る。教員の活用において、特に次の2点が十分でないことがわかった。

- ・ 教育効果をあげるコンピュータやインターネットの利用計画、活用力
- ・ 授業中に活用して、指導する能力

また、教師個々の個人差が大きいこともわかった。

原因として、考えられることは

- ① 教師が研修、準備などに時間がとれない。
- ② 効果的な利用活用法がわからない。
- ③ 研修する機会が少なく自信がない。
- ④ ICT 機器がすぐに使えない環境にある。
- ⑤ 身近にあり、すぐに使える環境を整えることが必要である。
- ⑥ トラブルに対応できる人的配慮も必要である。
- ⑦ 夏休みなどに情報機器の研修を行う取り組みは積極的に行われている。
- ⑧ 興味を持って取り組み、取り入れていこうとする教師がいるが、個人差は大きい。

また、モラル教育については

- ① 教師の情報セキュリティに対する認識が甘い。
- ② 教師が情報セキュリティの必要性や怖さを教えられない
- ③ 家庭との連携が十分でない。

C 子どものモラル、情報活用状況

地区教育協議会情報化社会と教育・文化活動研究会が実施したアンケート調査を利用して、再実施した。子どもの家庭でのパソコンの利用については

- ・ パソコンを所有する家庭は86%が多い。
- ・ 学年が上がるにつれて、利用頻度は増加している。
- ・ インターネットの閲覧がほとんどで、パソコンでのメールは少ない。
- ・ まだ、トラブルに巻き込まれるケースはない。
- ・ また、情報モラルについては、しっかりした知識を持っている児童は少ない。

III まとめと課題

情報教育の現状についてアンケートを通して、把握することが出来た。また、夏の研修会では電子黒板などの実際の活用実践を知ることができた。同じ地域での情報を交換できたことは互いに有用であり、今後も継続を図りたい。

教育の情報化の推進にあたっては、校長のリーダーシップが十分に発揮されなければならない。それは、ICT 機器に期待できる効果的活用を進める中で、今求められている確かな学力の確実な習得を図るため、より使いやすい環境整備を推し進めるなどの積極的な教育管理が大切であるからである。

また、教職員の ICT 活用力には個人差が大きいことから、意識の高まりを持つような研修や身近に使える環境を整え、職場内において実践交流をするなど、研修を進める中で徐々に浸透させていくことが大切であることが分かった。

児童生徒の情報活用能力の育成には、教職員の能力・資質の向上が必須となる。したがって、校長は情報教育に関するしっかりとしたビジョンを持ち、環境整備、活用の実践を進める必要がある。

(部長 中村 精志)